

第3章 歴史文化の特徴と関連文化財群

本市は、約2,000万年前の日本海形成に伴う「丹後半島」という特異な自然的基盤と、古くからの大陸や王権との交流・交易を通じて形成された社会的基盤に築かれてきた人びとの暮らしによって育まれてきました。本市の自然的・地理的環境、社会的環境、歴史的背景や文化財、人々の生活文化からより詳しく紐解くと、本市の歴史文化の特徴は

「丹後半島における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化」とまとめることができます(図3-1)。

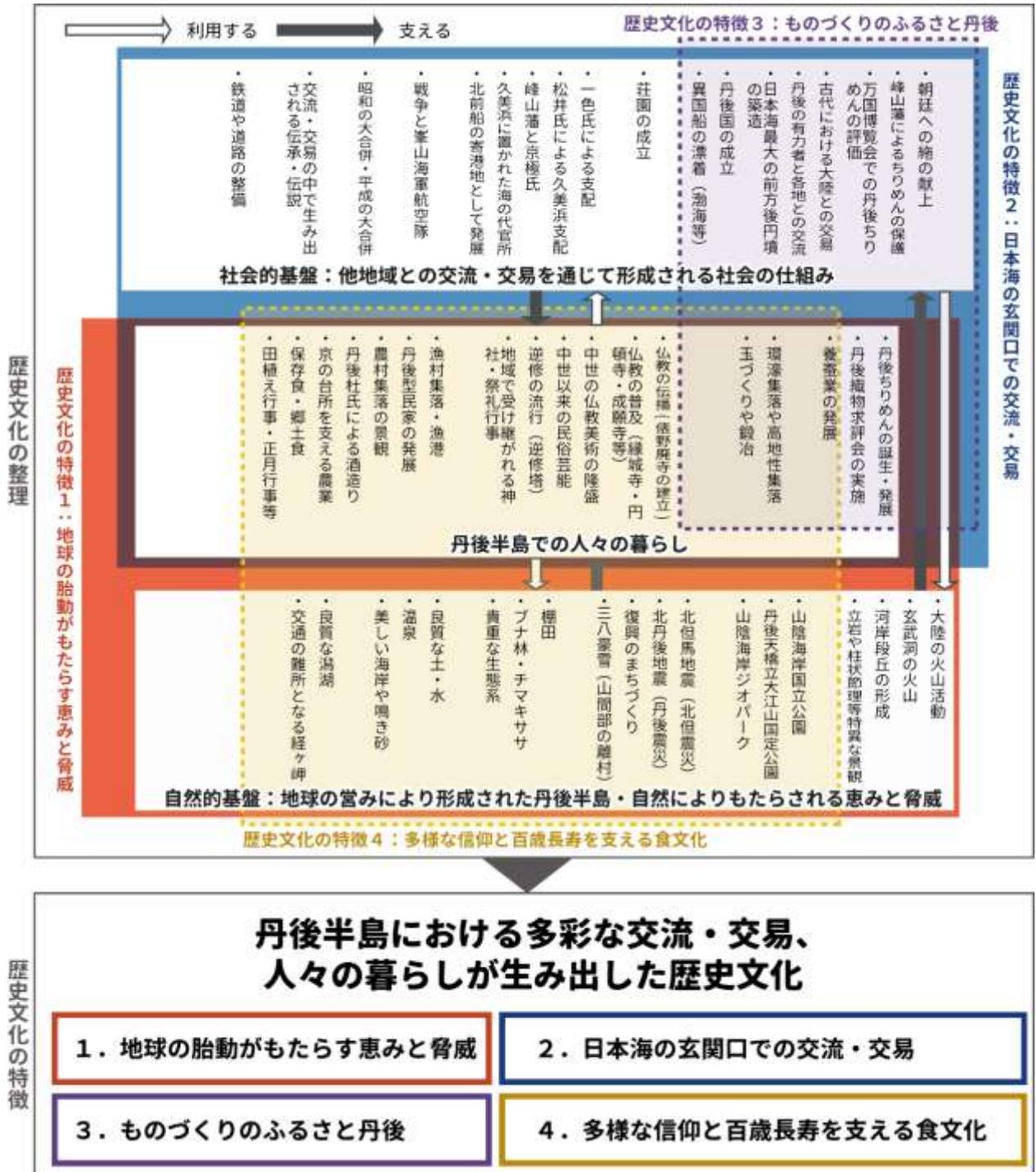


図3-1 歴史文化の整理とその特徴

自然的基盤、社会的基盤、伝統的なものづくりや人々の暮らしが相互に深く関連しあって生まれた本市の歴史文化の特徴である「丹後半島における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化」は、次に示すように、本市の基盤となる自然、自然的基盤の上に成立する社会環境、伝統的なものづくりの側面ならびに人々の暮らしの様相が関連して、

基盤となる自然：**地球の胎動がもたらす恵みと脅威**、

自然的基盤の上に成立する社会的基盤：**日本海の玄関口での交流・交易**、

自然的基盤・社会的基盤があいまった伝統的なものづくり：**ものづくりのふるさと丹後**、

自然と社会が相互に関連しあって生まれた人々の暮らし：**多様な信仰と百歳長寿の食文化**

という4つの特徴に区分することができます。これらの4つの歴史文化の特徴は下記に示したように整理されます。

表3-2 京丹後市の歴史文化の特徴

歴史文化の特徴	
丹後半島における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化	
地球の胎動がもたらす恵みと脅威	約2,000万年前にさかのぼる日本海形成に関わる多様な地質、日本海の海面変動や地殻変動によって形成された多彩な海岸地形を基盤に、この地で生まれる様々な恵みがもたらす漁業や農業、酒造りなどの生業の繁栄、さらには地震や豪雪などに代表される自然災害からの復興の歩みなど、多彩な自然を背景にした歴史文化
日本海の玄関口での交流・交易	古代から日本海の玄関口にあたる丹後半島に訪問した国内外の人々による交流や交易が生み出した「丹後王国」を象徴する多くの遺跡、羽衣天女や鬼退治等の伝説・伝承、中世から近世にかけての一色氏や京極氏、「海の代官所」とも呼ぶべき久美浜代官所による統治と興隆の歴史文化
ものづくりのふるさと丹後	松本重太郎に代表される「気張る」丹後人の気質、古代にさかのぼるものづくり、絹織物「丹後ちりめん」の発祥に関わった人と技、国内最大の産地であり織物の営みが育んだ住居と機場が一体となった機屋や絹織物を扱う商家、三角屋根の織物工場の町並みがつくりだす歴史文化
多様な信仰と百歳長寿を支える食文化	平安時代より花開いた仏教文化と暮らしのなかで継承されてきた人々の祈り、丹後で育まれた大地と海の恵み・食材を暮らしに取り入れる食文化による百歳長寿を養う食文化が一体となった歴史文化

本市では、これまでに進めてきた山陰海岸ジオパークの取り組みを典型として、市民が文化財という「光」を発見し、磨き、その保存と活用に積極的に関わってきました。

また、丹後半島の玄関口で興隆した「丹後王国」にまつわる遺跡や物語の素晴らしさをさまざまなメディアを通じて、情報発信してきました。

さらに、丹後ちりめんなどのものづくりに関わる歴史も多様です。

このように、本市の「光」である歴史文化や文化財の素晴らしさなどをより一層多くの市民が深く発見して学び、市外からその「光」を見にくる人がわかりやすく理解できることを目的として、本市の歴史文化の4つの特徴をさらに11のストーリーに紡ぎだしました。

この11のストーリーとストーリーを構成する文化財群を関連文化財群と呼び、将来にわたって保存・活用の取り組みを進めていくこととしました。

歴史文化の特徴から導き出された11のストーリーとテーマ、主な構成文化財は下記のとおりです。

表 3-1 歴史文化の特徴と関連文化財群のストーリー

歴史文化の特徴	関連文化財群のテーマ	ストーリーの概要	主な文化財
地球の胎動がもたらす恵みと脅威	地球の営みが生んだ半島の景観と恵み	日本海形成に伴う地殻変動が生みだした丹後半島の特異な海や山の景観、温泉や砂丘などで生み出される作物などの恵みが持続可能な地域発展に向けて受け継がれている	大成古墳群、立岩、琴引浜、五色浜、袖志の棚田
	半島に展開する海・里・山の生業	海岸に展開する漁村集落の暮らしや海に関わる漁業などの生業、平野部の農村集落の美しさ、ブナ林に支えられた山村の暮らしなど、先人の息づかいが暮らしの中で息づがれている	竹野、中浜など漁村集落、造り酒屋、内山ブナ林
	災害の歴史と記憶を伝える	近現代史の画期をなす丹後震災からの復興過程、震災の記憶継承、戦争の記憶や豪雪被害などの歴史と記憶を伝えていく	郷村断層、丹後震災記念館、河辺飛行場跡、廃村集落碑
日本海の玄関口での交流・交易	「丹後王国」の成立から興隆	門脇禎二が提唱した「丹後王国」を物語る巨大な古墳群や墳丘墓など壮大な遺跡の魅力の発信などにより、日本海の玄関口にあたる本市と国内外の交流・交易の歴史を伝える	赤坂今井墳墓、網野銚子山古墳、神明山古墳、黒部銚子山古墳
	半島に語り継がれた伝説・伝承	羽衣天女、乙姫、間人皇后、川上摩須郎女、小野小町、静御前、細川ガラシャ夫人の7人の女性にまつわる伝承、麻呂子親王の鬼退治伝承などが本市の風景を魅力的なものとしている	奈具神社、嶋児神社、小野小町墓、駒返し の滝地蔵
	「一色領国」から「海の代官所」へ	丹後守護として君臨した一色氏による支配、京極氏による峰山藩の統治、「海の代官所」ともいえる久美浜の代官所設置による興隆など中世から近世にかけての統治・興隆の歴史が今も色濃く残っている	本願寺本堂、稲葉家住宅、参考館、峯山藩主京極家墓所
ものづくりのふるさと丹後	「気張る」丹後人の気質ともものづくりのふるさと	松本重太郎に代表される「気張る」丹後人の気質が生み出した古代にさかのぼるものづくりの伝統は、現在の機械・金属産業に受け継がれている	松本重太郎墓、遠慮遺跡、扇谷遺跡出土品
	「丹後ちりめん」をめぐる人と技	織物業にまつわる遺跡や遺物を伝え、江戸時代に絹屋佐平治がはじめた丹後ちりめんの人と技は発展しながら今も独特の歴史文化を紡ぎだしている	蠶織神社、金刀比羅神社の秋祭り、石造狛猫
多様な信仰と百歳長寿を支える食文化	花開いた仏教文化	多様な仏教美術や寺院群のほか、市内各地に残る自然石板碑や「お地藏さん」、経塚や五輪塔などに込められた人々の祈りが伝わる仏教文化が花開いている	縁城寺木造千手観音立像、上山寺五輪塔、平地地蔵
	暮らしを彩る祭礼・芸能	田楽や踊子など中世以前に起源をもつ多様な民俗文化を今に伝えるとともに、春夏秋冬の季節毎の祭礼や芸能が今も継承されている	野中の田楽、黒部の踊子、市野々の菖蒲田植え
	半島と共に生きる食の知恵	古代から継承されてきた風土に根差した豊かな食文化の知恵は長寿のまちづくりへとつながっている	浜詰遺跡、丹後ばら寿司、うどん皿

1. 地球の胎動がもたらす恵みと脅威

1-1. 地球の営みが生んだ半島の景観と恵み

■今に残る日本海形成に伴う地球の営み

丹後半島は、日本海形成に伴う地球の営みがもたらした数々の恵みや景観を今に残しています。

■半島東側の火山岩がもたらす景観や人々の営み

半島の東側は、おもに固い火山岩からなります。海岸沿いには、日本海ができあがったころの火山活動のようすがわかる立岩、屏風岩のほか、「袖志の棚田」のように日本海とのコントラストが美しい海岸段丘上に広がる水田景観が見られます。半島最北端の経ヶ岬は、古くから海上交通の難所であり、明治31年(1898)に経ヶ岬灯台が設置されました。現在も歴史的景観を守りながら灯台の改修整備や保存活動が行われています。内陸の険しい山地には、碓高原のような地すべり地形があり、古くから集落や耕作地として利用されてきました。

■半島西側の花崗岩がもたらす景観や遺跡

半島の西側は、おもに風化した花崗岩からなります。海岸沿いには、琴引浜の鳴き砂のほか、小天橋砂州が美しい久美浜湾、府下で最大の離湖や丹後砂丘など特徴的な自然景観が見られます。風化した花崗岩からは砂鉄が取り出せることから、各時代の製鉄遺跡が見られます。

■地球の営みがもたらす恵み、温泉

地球の営みがもたらす恵みのひとつに、地熱の影響によってできた温泉があります。木津温泉は、天平15年(743)に行基が湧き出させたと伝える府下最古の温泉です。市内には、他にも数多くの温泉があり、市民の憩いの場や観光に活用されています。

■地域の「たからもの」ジオサイト

本市の美しい景観や地球の営みがもたらす恩恵は、長い時間をかけて、地域の人々が大切に守り、つないできた地域の「たからもの」です。ユネスコ世界ジオパークに認定された現在も、ジオサイトと呼ばれる地域の「たからもの」の保全と活用に向けた様々な取り組みが進んでいます。

■地球の恵みの保全・活用による持続可能な地域発展に向けて

ジオパークを構成するジオサイトの情報発信拠点として位置づけられている「山陰海岸ジオパーク京丹后市情報センター」と「琴引浜鳴き砂文化館」をストーリー「地球の営みが生んだ半島の景観と恵み」の情報発信拠点として位置づけ、本市の貴重な自然景観や文化財を適切に守り、山陰海岸ジオパークの取り組みと連携しながら、教育や観光など様々な分野で活用し、持続可能な地域発展を目指します。



立岩



経ヶ岬灯台



袖志の棚田



離湖

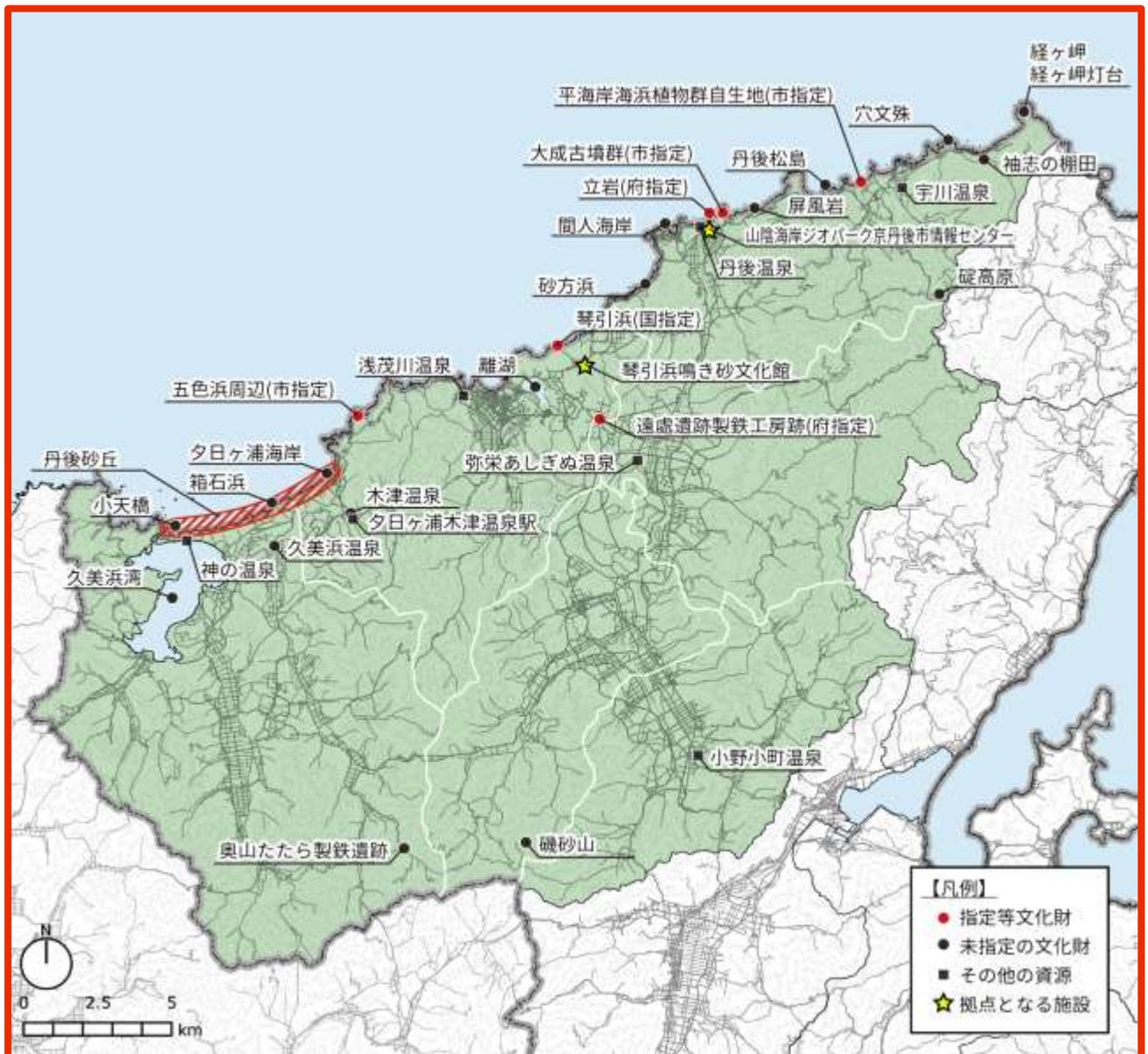


図 3-3 <地球の営みが生んだ半島の景観と恵み>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



大成古墳群と立岩



夕日ヶ浦木津温泉駅の足湯

1-2. 半島に展開する海・里・山の生業

■海岸に展開する遺跡・暮らし・生業

本市の北側は海岸が長く続きます。府下唯一の縄文時代貝塚の浜詰遺跡（網野町浜詰）や、海を眺める海岸段丘上に立地する大成古墳群（丹後町竹野）は、古くから人々が海とつながる暮らしを営んできたことを示しています。海辺で暮らす人々は、漁業や海藻採集など海と密接に関わる生業を営んできました。現在も網野町浜詰や久美浜町湊宮における定置網漁業によるブリ漁、箱めがねを用いてサザエなどを捕獲する磯見漁業、間人ガニの底引き網漁業、中浜の一本釣り漁業など多様な漁法が継承されています。漁村集落である丹後町の竹野、中浜、網野町の三津、遊などでは、港に通じる小路が走る独特の町割りや景観、「イケ」と呼ばれる共用の溜め井戸が残っています。またかつて近畿や北陸などの酒蔵で活躍した丹後町宇川を中心とした丹後杜氏は、厳しい冬季の出稼ぎから始まりました。

■農村集落の美しさと造り酒屋

平野部、主に市域西部は、竹野川、川上谷川などの河川が流れます。河川沿いの河岸段丘や扇状地には、農村集落が立地します。なだらかな花崗岩の山々から流れ出るきれいな水は、おいしい米が獲れるだけでなく、さまざまな味覚、風味が楽しめる造り酒屋を数多く生み出しました。集落では、現在も四間で構成される伝統的な「丹後型民家」があり、外壁を杉板張りとするなど先人の工夫が見て取れます。

■山村の暮らしを支えた里山ブナ林

山間部は、ブナ林をはじめとした豊かな森林地帯となっており、そばが栽培されるなど、厳しい自然と折り合いながら暮らしの文化を紡いできました。用心山と呼ばれた「里山ブナ林」は、林床に生育するチマキザサが屋根に葺かれ、伐りだされた大径木が構造材に用いられるなど、人々の暮らしを支えてきました。旧田上弥之祐家住宅は、「丹後型民家」の古い姿をよく残し、里山ブナ林と共に生きてきた暮らしの息づかいを伝えています。

■暮らしの歴史文化や先人の息づかいの継承に向けて

本市の独特の地形や地質を活用して、丹後砂丘ではメロン、スイカなどの栽培が、海岸段丘や丘陵地では梨や桃などの果樹栽培が行われ、これらの農産物は貴重な観光資源となっています。

この地の生業、集落景観が相まって、多彩な暮らしの歴史文化や先人の息づかいが感じられます。ブナハウス内山や稲葉家住宅などを拠点として、本市の地域性に富んだ多様な暮らしの文化を学び、継承することで持続可能な社会の形成につなげます。



漁村集落(丹後町竹野)



港に通じる小路(網野町遊)



農村集落(丹後町牧ノ谷)



内山ブナ林



旧田上弥之祐家住宅(大宮町五十河)

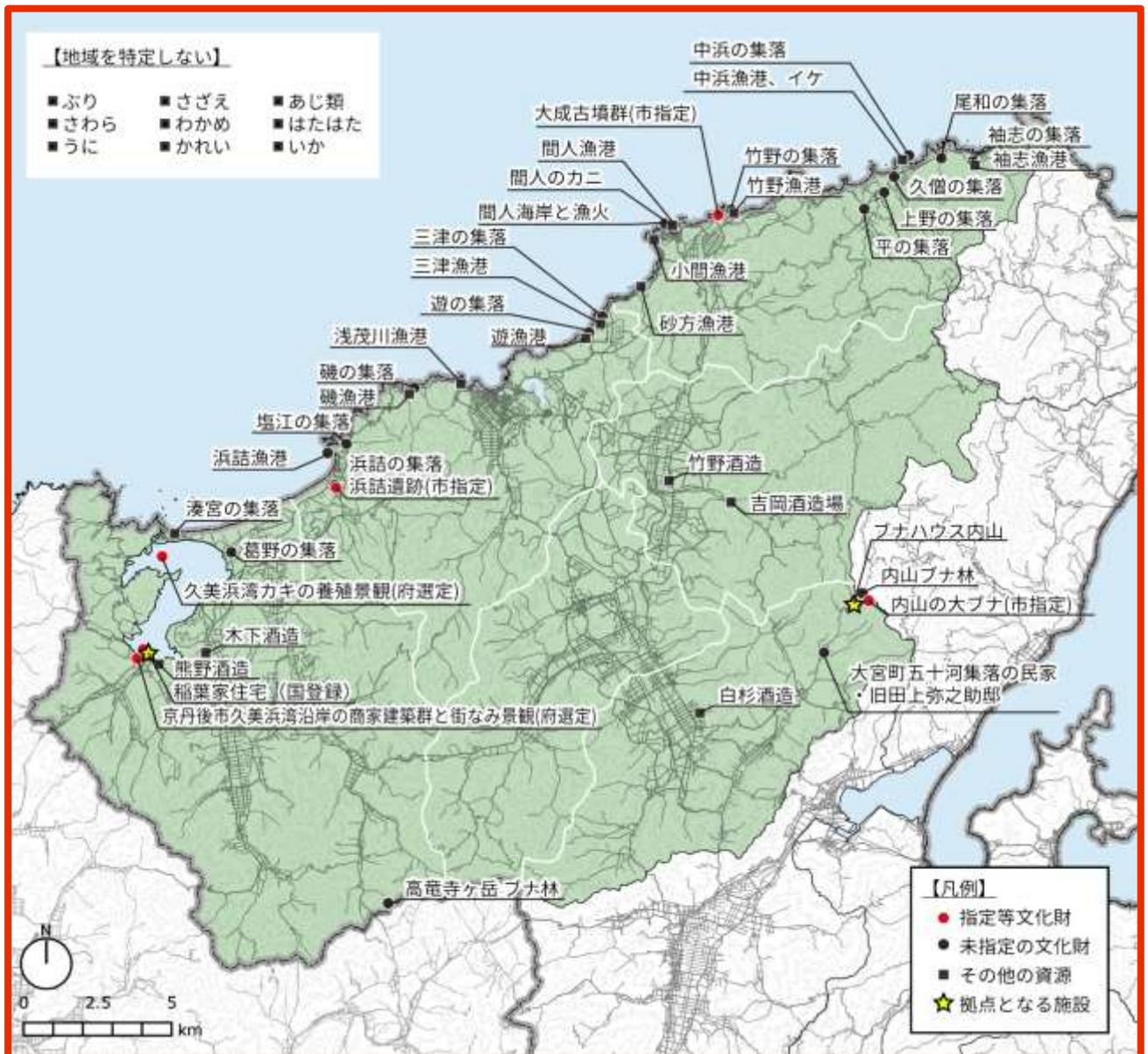


図 3-4 <半島に展開する海・里・山の生業>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



久美浜湾カキの養殖景観



間人ガニの出荷風景

1-3. 災害の歴史と記憶を伝える

■丹後震災からの復興の歩み

地球の営みは、時に災害という形をとって、人々の生活に大きな影響を与えます。もっとも古い災害の記録は『続日本紀』大宝元年（701）の「丹波国地震三日」であり、その後も本市は地震や水害、火災に見舞われてきました。昭和2年（1927）に発生した北丹後地震（丹後震災）は、郷村断層、山田断層という2つの断層帯が動いたマグニチュード7.3の直下型地震であり、本市の歴史上、最大の災害でした。断層に近い地域は、地震の激しい揺れや直後に発生した火災により壊滅的な被害を受けました。丹後震災からの復興は、本市の近現代史の画期をなすものといえます。

■震災遺構や復興建築の保存

郷村断層のうち生野内、樋口、小池の3地点は、昭和4年（1929）に国の天然記念物に指定されました。また震災復興建築には、震災義援金で京都府が建設した丹後震災記念館（峰山町室）のほか、旧口大野村役場庁舎（大宮町口大野）、峰山小学校本館（峰山町不断）などがあります。さらに市内各地には、震災の記憶を後世に伝えるため、震災記念碑や供養塔、震災殉難碑などが建立されました。昭和47年（1972）には、峰山町立図書館が「丹後震災記念展」を開催し、現在に至るまで地震で被災した資料や新聞記事などの収集・公開が継続しています。

■戦争の記憶を伝える遺跡や資料

また自然災害ではありませんが、中郡盆地には、太平洋戦争中に河辺飛行場が造られました。現在も残る格納庫、火薬庫、弾薬庫や海軍橋などは、総動員体制下の近代行政文書、当時の衣類や関係資料とともに、戦争の記憶を伝えるものです。

■三八豪雪の影響

本市は、日本海側に立地するため、冬季の積雪が多い地域です。昭和38年（1963）の冬は、例年のない豪雪となり、大雪害に見舞われました。この三八豪雪が契機となり、山間部集落の集団離村、廃村化が一気に進みました。力石など住民が集団離村した集落には石碑が建てられ、往時の状況を知ることができます。

■災害の歴史と記憶の継承に向けて

全国的に見て現存する数少ない震災記念館である丹後震災記念館や、郷村断層に近く災害に関する多様な資料を保管する京丹後市立郷土資料館をストーリー「災害の歴史と記憶を伝える」の拠点とし、山陰海岸ジオパークの取り組みと連携しながら、防災や教育などの分野に活用していきます。



郷村断層(小池地区)



丹後震災記念館



旧口大野村役場庁舎



丹後震災記念展



峯空園



図 3-5 <災害の歴史と記憶を伝える>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



震災記念塔(峰山町室)



伊藤快彦作の震災画



離村碑(丹後町力石)

2. 日本海の玄関口での交流・交易

2-1. 「丹後王国」の成立から興隆

■ 門脇楨二による「丹後王国」論

丹後国は、和銅6年(713)の分国以前は丹波国であり、現在の京都府亀岡市以北全域と兵庫県氷上郡、多紀郡を範囲とする広大な国でした。その中心は京丹後市峰山町丹波にあったとされています。門脇楨二は、ヤマト王権などと並び独立性をもって存在したとされる勢力「丹後王国」があったと提唱しました。

■ 日本海の玄関口の交流・交易の様子を伝える遺跡

本市に数多く残る遺跡、考古資料は、人々の暮らしと交流・交易の様子を示しています。弥生時代前期の竹野遺跡(丹後町竹野)や高地性集落の扇谷遺跡(峰山町杉谷・丹波)などは、人々の交流と争いの様子を伝えています。続く中期、奈具岡遺跡の水晶玉作り工房などは、海外との交易の歴史を物語るもので、有力者の出現前夜の姿といえます。後期前葉には、大山墳墓群(丹後町大山)など、ガラス玉や鉄製品などの副葬品を伴う墓がつくられます。これらの出土品は、交易の様子や大きな力をもった有力者の出現を物語るものです。

■ 「丹後王国」の最盛期の遺跡群とその後

弥生時代後期中葉の大風呂南墳墓(与謝野町)では、ガラス釧や銅釧などの豪華な副葬品があり、さらに大きな力をもった王の存在が推定されます。後期末には、国内最大級の墳丘墓である赤坂今井墳墓(峰山町赤坂)が出現し、頭飾りなどの副葬品からこの時期に「丹後王国」が成立したものと考えられます。

古墳時代前期後半～中期初頭には、与謝野町の蛭子山古墳を皮切りに、日本海側最大の前方後円墳である網野銚子山古墳(網野町網野)と神明山古墳(丹後町宮)が築造されました。これら丹後三大古墳は大きな権力を持った王が造ったと推定され、「丹後王国」の最盛期と考えられます。その後、中期前半の黒部銚子山古墳(弥栄町黒部)を最後に大型の前方後円墳は消滅し、産土山古墳(丹後町竹野)や離湖古墳(網野町小浜)のように円墳や方墳となります。

■ 「丹後王国」の魅力発信に向けて

弥生時代後期から古墳時代中期は「丹後王国」の時代と考えられ、数多くの遺跡や出土品は、当地の華やかでかつ広範な交流・交易の様子を今に伝えています。

丹後古代の里資料館を拠点とし、ストーリー「丹後王国」の成立から興隆」のさらなる解明に努めるとともに、墳丘上に自由に上がって体感できる網野銚子山古墳などの遺跡を教育や観光などの分野で活用し、市内外へ「丹後王国」の魅力を発信します。



扇谷遺跡の環濠



赤坂今井墳墓の頭飾り



網野銚子山古墳と日本海



神明山古墳



黒部銚子山古墳

2-2. 半島に語り継がれた豊かな伝説・伝承

■語りを受け継がれる風土

かつては、囲炉裏を囲んだ団らんのひとときに、子どもたちが祖母などに昔話を語ってほしいとねだる姿がありました。また日々の生業や子どもたちの遊びなどの場面では、自然と民謡が口ずさまれました。このように丹後半島は、昔話などの語り、親から子へ受け継がれる風土であったといえます。



磯砂山
(羽衣天女伝説関連)

■7人の女性にまつわる伝承と鬼退治の伝説

本市には、乙姫、間人皇后、川上摩須郎女、小野小町、静御前、細川ガラシャ夫人に関わる伝承があり、羽衣天女を加えて7人の女性にまつわる伝承地が残されています。また、麻呂子親王の鬼退治の伝説も丹後・丹波一帯で語り継がれています。

羽衣天女	本市の伝説で最も古い『丹後国風土記』逸文に記された羽衣天女は、神が天に帰ることなく神社に祀られます。天女は伊勢外宮の豊受大神とされ、伝承地には比治山と伝える磯砂山と女池、奈具神社(弥栄町船木)、乙女神社(峰山町鱒留)等があります。
浦嶋子と乙姫	浦嶋子と乙姫の伝承は各地にあります、『丹後国風土記』逸文にも登場し、先祖の由来を語る内容です。市域には網野町に浦嶋伝承が伝わり、網野神社(網野町網野)、嶋見神社(網野町浅茂川)、西浦福島神社等に浦嶋子や乙姫を祀っています。
間人皇后	間人皇后は、穴穂部間人皇后と呼ばれ、用明天皇の後です。地元では「はしうどこうごう」と呼ばれ、その名から、丹後町間人の地名の由来が伝承されています。
川上摩須郎女	『日本書紀』や『古事記』には、川上摩須郎女と丹波道主命との間に生まれた「丹波の五女」の伝承、ヤマトタケルの祖母ヒバスヒメが垂仁天皇との間に、倭姫命や景行天皇等を産んだと記されます。久美浜町須田には、川上摩須の屋敷跡の伝承が残っています。
小野小町	大宮町五十河には小町を開基とする妙性寺があり、『妙性寺縁起』などに小町が亡くなった地と記されます。小町の墓、位牌、小町が使用した鏡と椀などの資料から、五十河の小町は村の火災・難産をなくす江戸時代の遊行の霊能者の伝承と考えられます。
静御前	網野町磯は、静御前の母である磯禪師の出生地と伝えています。延宝5年(1677)の『与謝巡遊記』がもっとも古い記録で、静神社や船かくし岩などの伝承地があります。
細川ガラシャ夫人	弥栄町味土野の細川ガラシャ夫人隠棲地は、父明智光秀の謀反の後、夫細川忠興の命により2年間蟄居した地と伝え、夫人が隠棲した女城跡や家臣がいた男城跡などの伝承地があります。
麻呂子親王の鬼退治	丹後・丹波一帯には、聖徳太子の異母弟である麻呂子親王の鬼退治伝承が広く伝わっています。市域には、竹野神社(丹後町宮)に伝わる鬼退治を描いた等楽寺縁起や円頓寺(久美浜町円頓寺)の木造薬師三尊像、願興寺(丹後町願興寺)の薬師三尊像など麻呂子親王の七仏薬師と伝える仏像、鬼を閉じ込めたといえる立岩などがあります。

■伝説・伝承の継承による風景の魅力の活用に向けて

多様な伝説、伝承は、本市の豊かな風景をより魅力的なものとするとともに、人々の地域への愛着と深く結びついています。小町公園「小町の舎」と丹後古代の里資料館を拠点として、「半島に語り継がれた豊かな伝説・伝承」を継承し、観光や教育に活用することで、本市の豊かな風景の魅力を磨きます。



間人皇后と聖徳太子の母子像

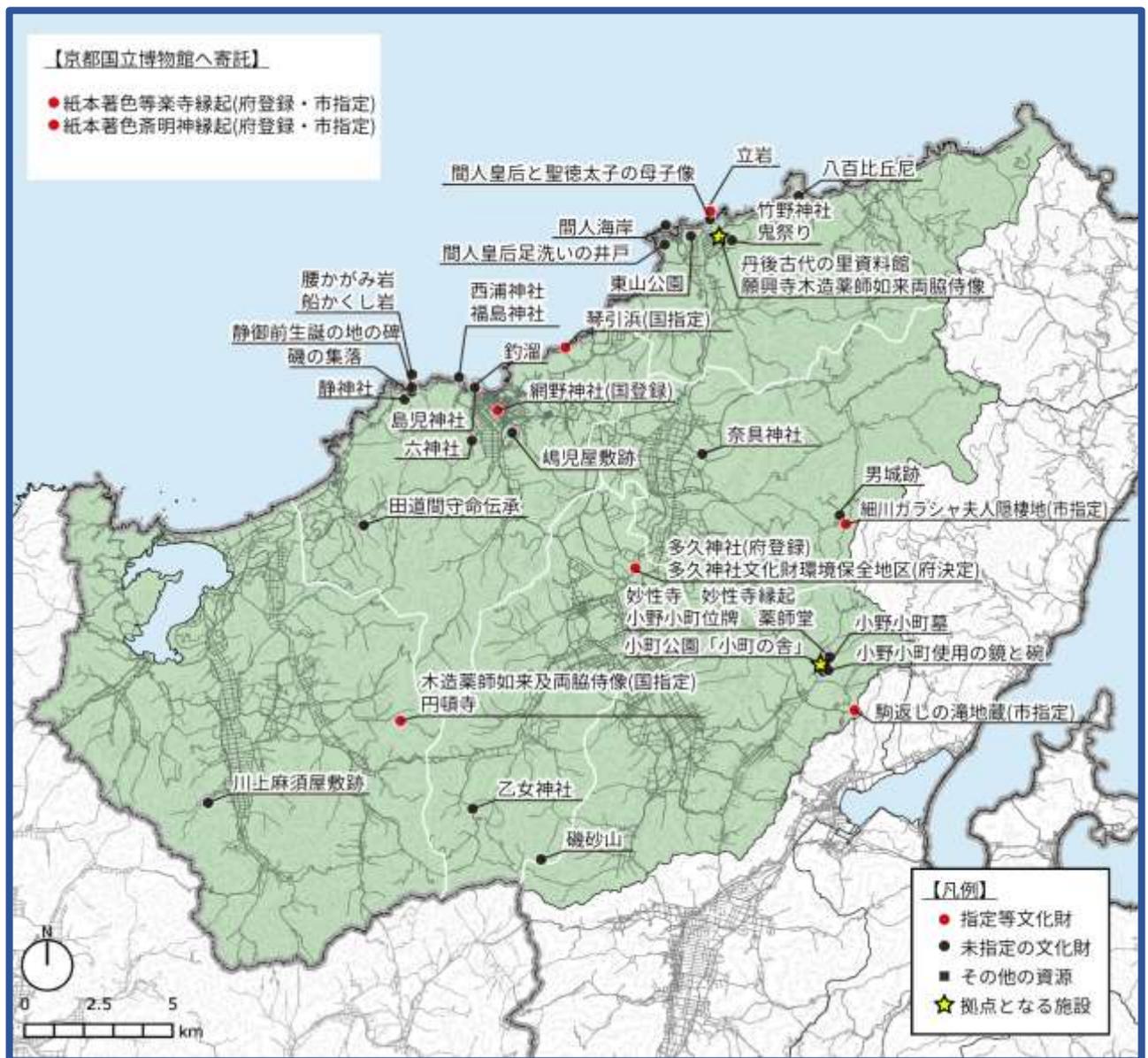


図 3-7 <半島に語り継がれた豊かな伝説・伝承>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



静神社



小野小町墓



川上摩須屋敷跡

2-3. 「一色領国」から「海の代官所」へ

■ 統治と興隆の歴史

本市には、丹後守護として 200 年君臨した一色氏による支配、京極氏による峯山藩の統治、「海の代官所」を中心とした久美浜の興隆、さらには北前船の寄港地としてのまちの発展など、中世から近世にかけて本市の統治・興隆の歴史文化が今も色濃く残っています。

■ 「一色領国」と山城の築城

建武3(1336)年、一色範光が丹後国の守護に任命された後、一色氏は天正期にいたる約200年間、この地に君臨しました。天文7年(1538)の『丹後国御檀家帳』は、守護所であった府中の一色氏を頂点に、石川氏(与謝郡・丹波郡)、小倉氏(与謝郡)、伊賀氏(熊野郡・竹野郡)が統治するピラミッド型の秩序があったことを示しています。江戸時代の『丹哥府志』には、村ごとに一色氏配下の城主が配置された「一色領国」の伝承が記され、山城跡が数多く残っています。

■ 北前船の寄港による繁栄

浅茂川(網野町)、湊宮(久美浜町)、間人(丹後町)は、江戸時代、北前船が入る港として栄えました。湊宮では「五軒家」と呼ばれる5家の豪商が栄え、間人には船荷問屋として但馬屋、加賀屋、因幡屋があったと伝えています。また、溝谷神社(弥栄町外村)や蛭見神社(久美浜町湊宮)に残る奉納和船は、航海の安全を願った信仰を今に伝えています。

■ 「海の代官所」から県庁につながる統治の中心地・久美浜

久美浜は中世から栄え、細川氏の時代には重臣の松井康之が松倉城に入り、城下町として整備されました。享保20年(1735)には久美浜代官所がおかれ、「海の代官所」として年貢米輸送や海運などで重要な役割を果たしました。明治元年(1868)には久美浜県庁がおかれ、統治の中心地となりました。現在の久美浜の町家の多くは、北但馬・丹後震災後のものですが、代官所の掛屋(公金預かり)をつとめた稲葉家(稲葉本家)住宅などが残る町並みは、中世以来の賑わいを今に伝えています。

■ 京極氏による峰山(峯山)藩の統治と繁栄

元和8年(1622)に3藩に分けられた丹後国のうち峰山藩では、京極高通が藩主となり、明治4年(1871)までの12代250年間、京極氏が治めました。峰山は、丹後震災で大きな被害を受けたものの、かつての陣屋町の町割りや今に伝えており、峰山陣屋跡や京極家墓所、寺町とともに、歴史的景観を現在も継承しています。

■ 近世の歴史文化の継承に向けて

今後、地域の史料調査を進め、稲葉家住宅や丹後古代の里資料館を拠点として、ストーリー〈「一色領国」から「海の代官所」へ〉を発信し、近世の歴史文化を活かしたまちづくりに取り組みます。



丹哥府志原本



下岡城跡



溝谷神社奉納和船



久美浜の町並み



峯山藩主京極家墓所

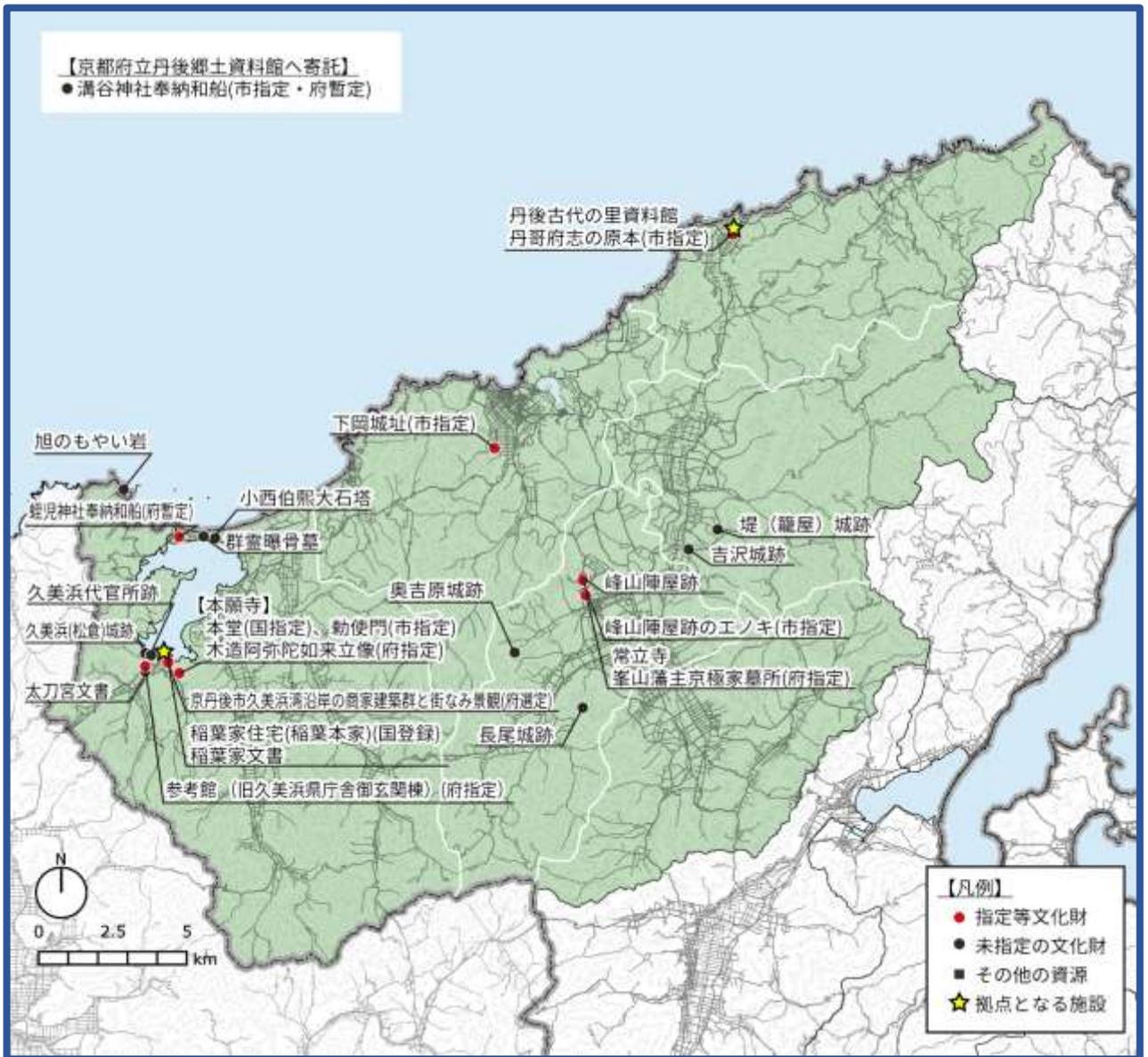


図 3-8 <「一色領国」から「海の代官所」へ>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



松倉城跡から久美濱の街なみを望む



群霊曝骨墓



小西伯熙が立てた大石塔

3. ものづくりのふるさと丹後

3-1. 「気張る」丹後人の気質とものづくりのふるさと

■「気張る」丹後人の気質とものづくり

丹後の「うらにし」気候は、勤勉・実直という丹後人の気質を生み出したと言います。近代以降の丹後は、「東の渋沢、西の松本」と称され、城山三郎の小説『気張る男』の主人公である松本重太郎のほか小谷勝重（いずれも丹後町間人出身）等多くの人材を各界へ輩出しました。また本市のものづくり、特に織物、機械・金属産業等は、「気張る」丹後人の気質が生み出した「品質へのこだわり」を強みに、都市部から遠い地理的不利をカバーしています。

■古代にさかのぼる丹後のものづくり

弥生時代中期の奈具岡遺跡（弥栄町溝谷）では、碧玉・緑色凝灰岩や水晶の玉作り工房のほか、鉄製品が見つかっています。弥生時代前期末葉の扇谷遺跡（峰山町杉谷ほか）では、鉄斧や鉄生産に伴う鍛冶くず（鍛冶滓）が出土し、早い時期から鉄製品や鉄加工の技術が伝わっていたことを示します。また、当時は貴重であったガラス細工も丹後でおこなわれていました。

遠慮遺跡は、古墳時代から奈良時代の大規模な製鉄遺跡で、取り出した鉄を加工した鍛冶工房や鉄の精錬に必要な炭を作る炭窯などがみつかっています。周辺のニゴレ遺跡（弥栄町鳥取）や黒部遺跡（弥栄町黒部）とあわせ、朝鮮半島から日本へ鉄の精錬技術が伝わった直後の6世紀から10世紀、場所を変えながら生産を続けた大規模な製鉄コンビナートとすることができます。

また本市には、「かなくそ」「かなふけ」など製鉄に関する小学地名が数多く残り、江戸時代の奥山（久美浜町二俣）のたたら製鉄など、古代より連綿と製鉄が続いたようすがうかがえます。

■多分野で発揮された匠の技

弥生～古墳時代の古殿遺跡（峰山町古殿）からは、珍しい「案」と呼ばれる机のほか、建築部材、農具、紡織具、什器等2000点を越える木製品が出土しています。中には製作途上用品もあり、この地で巧みな木工がおこなわれていたことがわかりました。また、飛鳥時代以降、市域にも多くの須恵器窯がつくられましたが、中でも、阿婆田窯跡は奈良時代には中心的な窯場として発展しました。こうした生産遺跡からは、現在、本市に展開する精巧な機械・金属業等につながる「匠」の姿が想像できます。

■ものづくりの発展に向けて

「気張る」丹後人の気質を活かした本市のものづくりのさらなる発展に向け、松本重太郎ギャラリーや丹後古代の里資料館を拠点として調査・研究に努め、丹後のものづくりの歴史を振り返りながら、現代の産業を見つめ直し、未来に向けて発信を行います。



松本重太郎ギャラリー



丹後最古の鉄斧（扇谷遺跡）



遠慮遺跡



奥山たたら製鉄跡



古殿遺跡の案

(公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター提供)

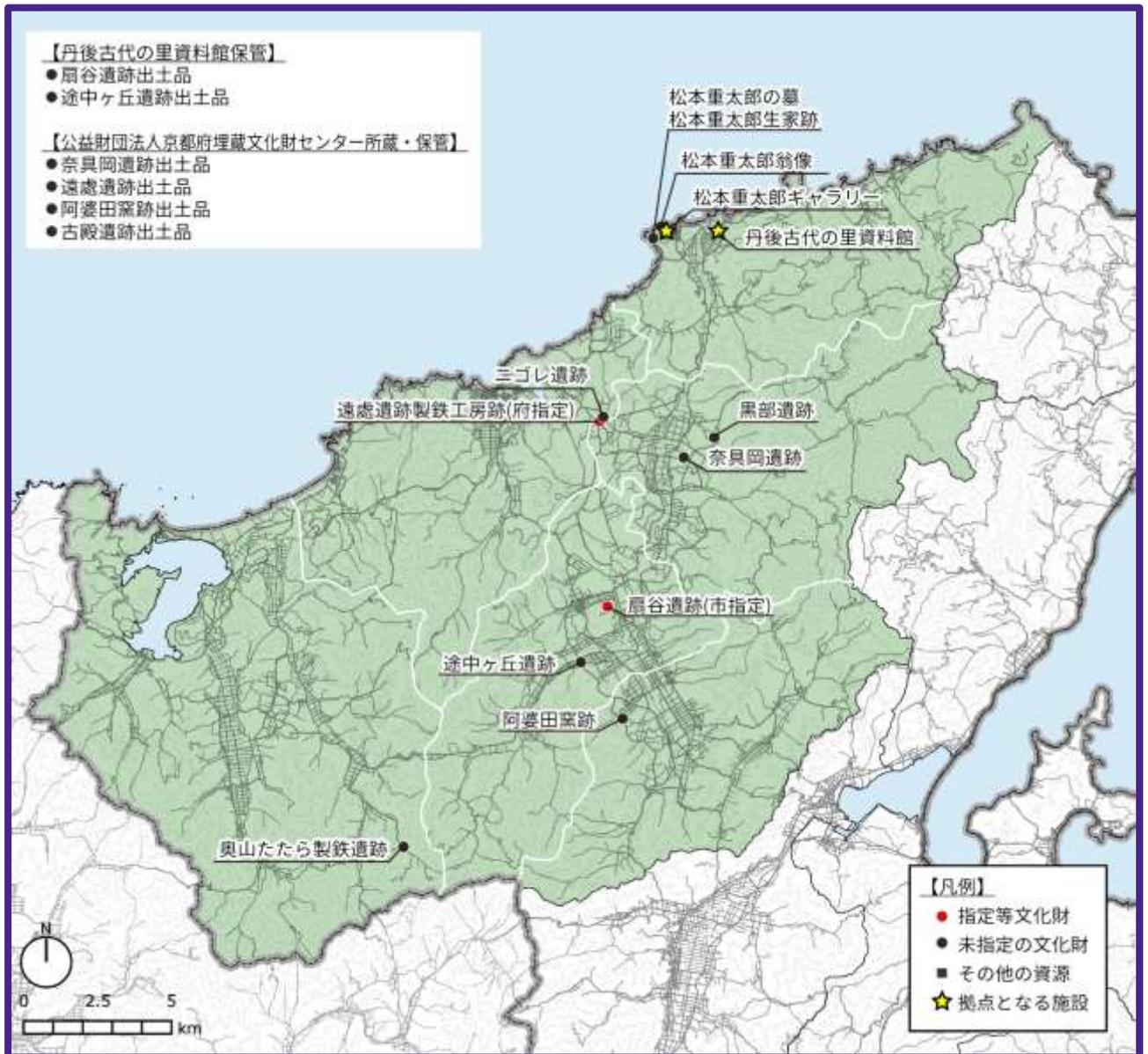


図 3-9 <「気張る」丹後人の気質ともものづくりのふるさと>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



松本重太郎墓



緑色凝灰岩の玉作り(途中ヶ丘遺跡出土)

3-2.「丹後ちりめん」をめぐる人と技

■織物業にまつわる遺跡や遺物

本市には織物業にまつわる歴史文化が色濃く残っています。古くは、弥生時代後期の今市墳墓群（大宮町河辺）出土の「やりがんな」に巻いた絹糸、古墳時代前期のカジヤ古墳（峰山町杉谷）出土の筒形銅器について平絹、天平11（739）年、鳥取郷（弥栄町）から貢納され正倉院宝物に残る「絶」があります。南北朝期から室町時代初期とされる『庭訓往来』には全国の特産品の中に丹後を代表する絹織物として「丹後精好」があげられています。

■絹屋佐平治による丹後ちりめんのはじまり

江戸時代、峰山の絹屋佐平治（森田治郎兵衛）は、西陣で修行奉公の末、享保5（1720）年にちりめんの技法を丹後にもたらしました。佐平治が初めて織ったちりめん布は、禅定寺（峰山町小西）の寺宝として大切に保存されています。その後、ちりめん製造は、農家の副業として瞬く間に広がり発展しました。金刀比羅神社（峰山町泉）境内社の木島神社には、養蚕の敵であるネズミを取るのが猫であるため、大変珍しい狛猫が祀られているほか、神社の周辺は峰山新地（琴平新地）と呼ばれる花街が栄えていました。

■近代以降のちりめん精練「国練」と新たな展開

明治期の生糸や織物は、重要な輸出品となりました。丹後ちりめんも海外向けの製品が求められ、国内向けには、撚糸を使わないちりめん風の旭織や、大宮町口大野の蒲田善兵衛が発明した綿ちりめんなどが作られました。一方、これらは、ちりめん生産に粗製乱造傾向を生むこととなったため、大正から昭和戦前期には丹後織物同業組合（現在の丹後織物工業組合）が設立され、精練を丹後で行う「国練」が実施されました。ちりめん製造は、個人経営の賃機のほか、足米機業場（網野町島津）等の大型のちりめん工場が稼働しており、技術面の指導は京都府立織物試験所（現在の京都府織物・機械金属振興センター）が行いました。試織品見本帳などは、当時の様子を伝える資料です。

戦後、高度経済成長期には、いわゆる「ガチャ万景気」のもと、昭和48（1973）年に生産量が頂点に達しました。その後、生産量は減少しますが、着物以外の分野の開発や海外への挑戦を行う事業者もあり、現在の丹後ちりめんは新たな展開を見せています。

■「丹後ちりめん」の新たな魅力の創造に向けて

古代からつながる出土品や技術などが一体となって、「丹後ちりめん」をめぐる人と技の歴史文化は今も紡ぎだされています。

京丹後市立郷土資料館を拠点とし、古代から脈々と続く織物の歴史を継承していくとともに、日本遺産の取組みとも連動し、丹後ちりめんの新たな魅力を創造し続けることを目指します。



絶の碑



石造狛猫



足米機業場



丹後ちりめん



図 3-10 <「丹後ちりめん」をめぐる人と技>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



蠶織神社



丹後縮緬国練検査記念碑



金刀比羅神社秋祭り(芸屋台)

4. 多様な信仰・民俗と百歳長寿を支える食文化

4-1. 花開いた仏教文化

■平安時代に開かれた寺院群

古い時代から人々は暮らしのなかで仏に祈りをささげてきました。

平安時代には本市の各地で寺院が開かれました。特に多いのは、密教系の山林寺院であり、善無畏三蔵が開いたと伝える縁城寺(峰山町橋木)、天応元年(781)明法上人の草創で隠岐島との関係を伝える上山寺(丹後町上山)などがあります。また浄土宗寺院では、後白河法皇の五七日供養を行ったと伝える本願寺(久美浜町十楽)があります。これらの寺院は、平安時代中期の縁城寺木造千手観音菩薩立像に代表されるように、仏像、仏画が数多く伝わっています。



縁城寺本堂と宝篋印塔

■鎌倉・室町時代の仏教の展開

弘安8年(1285)、時宗の一遍上人は、布教のため久美浜を訪れました。また、市域に多く残る禅宗寺院のうち最も古いものは、永享4年(1432)に千畝周竹が臨済宗寺院として再興した常喜院(久美浜町新町)です。その後、松井康之は、叔父の玄圃壺三を迎え常喜院を再興し、宗雲寺と改めました。



円頓寺薬師三尊像

■末法思想と経塚

仏教の教えは、死後の世界と深い関わりがあります。平安時代中期に流行した末法思想は、経典を後世に伝える経塚の流行につながりました。市域では、山の神一号経塚(久美浜町円頓寺)から出土した嘉応2年(1170)の銘文を持つ銅板製の経筒が最も古く、その後、14世紀にかけて30地点、50基以上の経塚が確認されています。また経典を供養した石造物には、宝篋印塔や五輪塔があり、寺院境内や墓地に建立されました。



「お地藏さん」(像容形板碑など)

■自然石板碑と「お地藏さん」

室町時代に入ると、戦乱の続くなかで、死後の冥福を祈って、生前にあらかじめ仏事供養を行う逆修塔が建立されました。立石大逆修塔(大宮町森本)は、自然石を用いた市域最大の板碑であり、その後、江戸時代前期まで、市内各地に自然石板碑は造られます。室町時代のお墓に伴う石造物としては、五輪塔、一石五輪塔のほか、現在、8月の地藏盆に祀られる「お地藏さん」として身近にある像容形板碑などがあります。さらに江戸時代には、常林寺住職が浄財を集めて建立した平地地藏があり、蓑を着せる行事は晩秋の風物詩となっています。



立石大逆修塔

■仏教文化の継承に向けて

古い時代から仏に祈りをささげてきた人々の暮らしと寺院で花開いた美術工芸品が織りなす歴史文化は今に続いています。

丹後古代の里資料館と京丹後市立郷土資料館を拠点施設として調査や公開を行うなど、本市の特色ある仏教文化を継承していきます。

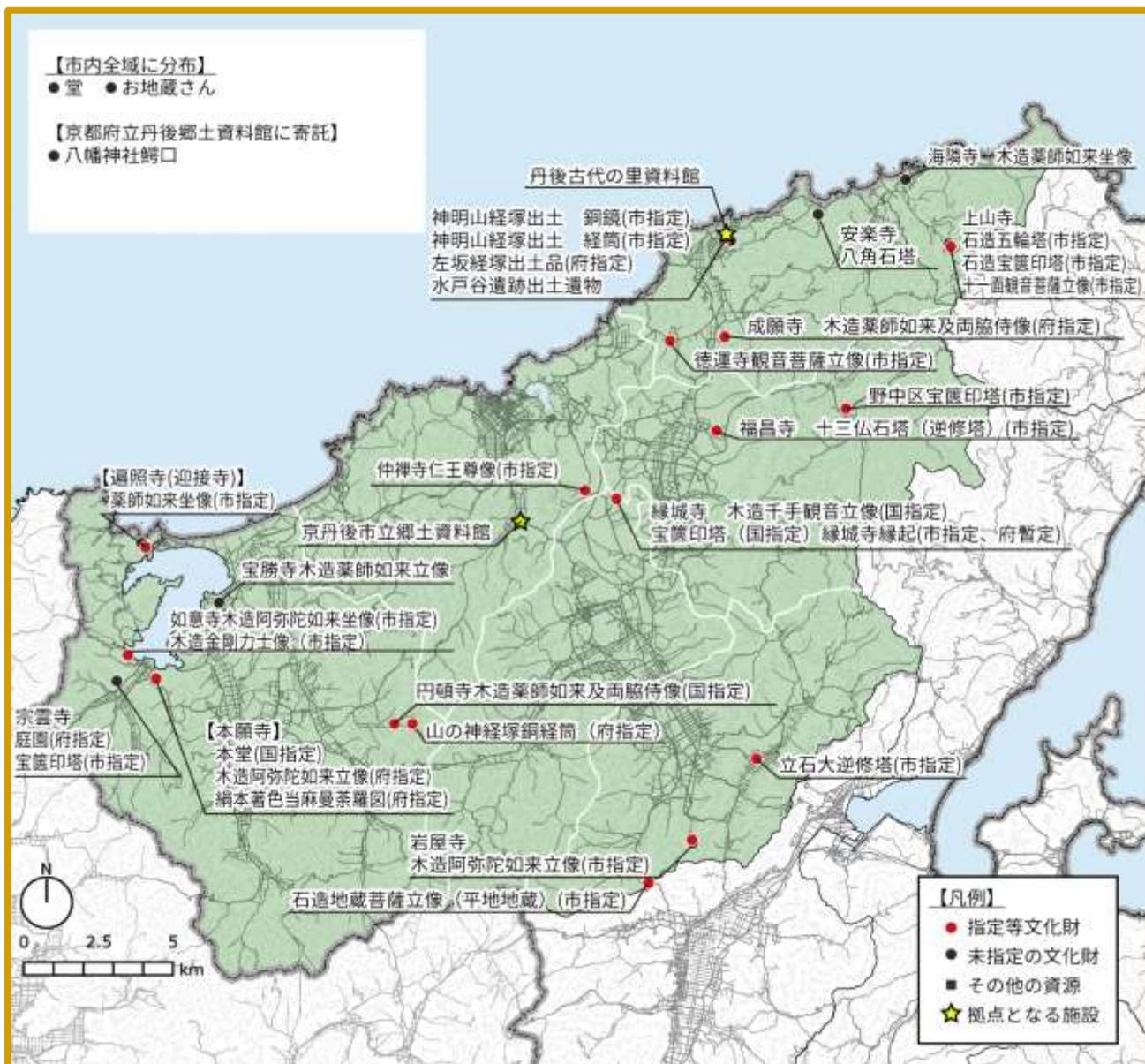


図 3-11 <花開いた仏教文化>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



本願寺本堂



市内各地に残る堂



平地地藏

4-2. 暮らしを彩る祭礼・芸能

■生業と結びついた村々の祭礼

本市では山々、日本海、河川などの自然環境、丹後ちりめんなどで賑わう町場の発展のなかで、田楽や踊子等、中世以前の起源をもつ多様な民俗文化が形成されてきました。さらに、江戸時代から村氏神の祭りや虫送りなどで「村」は生活共同体として協力することが多く、その伝統は今も本市の暮らしを豊かに彩っています。このような祭礼は生業と深く結びついています。「稲作発祥の地」と伝える月の輪田（峰山町二箇）のように、神田からとれた粳をもらい自家の苗代に撒く慣習を伝えるものもありますが、本市の特徴は社寺の祭りの豊かさであるといえます。

■春の祭り

春の祭りは、農事の開始にあたって豊作を祈願するものです。河上三神社（久美浜町布袋野）の三番叟は農業神の象徴として稲荷が登場します。天満神社（久美浜町市野々）の菖蒲田植えでは、5月の端午の節句に、子どもたちが菖蒲を投げ上げます。

■夏の祭り

夏の祭りには、水無月神社（網野町浅茂川）の水無月祭（川裾祭り）、矢田八幡神社（久美浜町佐野）の「カワシモサン」では、川の不浄を祓い、清浄化をはかります。また火祭りとして網野神社（網野町網野）のマンドリや河梨の十二灯（久美浜町河梨）、海で亡くなった人を供養する浜施餓鬼（網野町浜詰）があります。

■秋の祭り

秋の祭りは農作物の収穫感謝の祭りです。10月10日（近年は10月の日曜日に開催）には、市内各地で秋祭りが行われます。大宮神社（弥栄町野中）の野中の田楽、多久神社（峰山町丹波）の丹波の芝むくり（笹ばやし）、皇大神社（大宮町河辺）などの太刀振り、高畠稲荷神社（峰山町新町）の獅子神楽などの民俗芸能奉納のほか、勇壮な太鼓台・太鼓輿などの祭礼が行われています。

■冬の祭り

冬の祭りには、丹後町宮の竹野神社で繰り広げられる鬼祭りがあります。この祭りは征服者と被征服者を象徴した祭りにとらえることができ、氏神信仰などを探るうえで重要な祭りだといえます。

加えて、市内に数多く残る区有文書は村々の暮らしの様子を生き生きと伝え、ミノやセータ、キンマなどの民具は本市の多様な暮らしのようすを示しています。

■祭礼・行事の保存・継承に向けて

今後も、丹後古代の里資料館と京丹後市立郷土資料館を拠点として各地区の特色ある祭礼・行事を適切に保存・継承し、地域への愛着の醸成、地域コミュニティの強化につなげます。



野中の田楽



布袋野の三番叟



河梨の十二灯



黒部の踊子

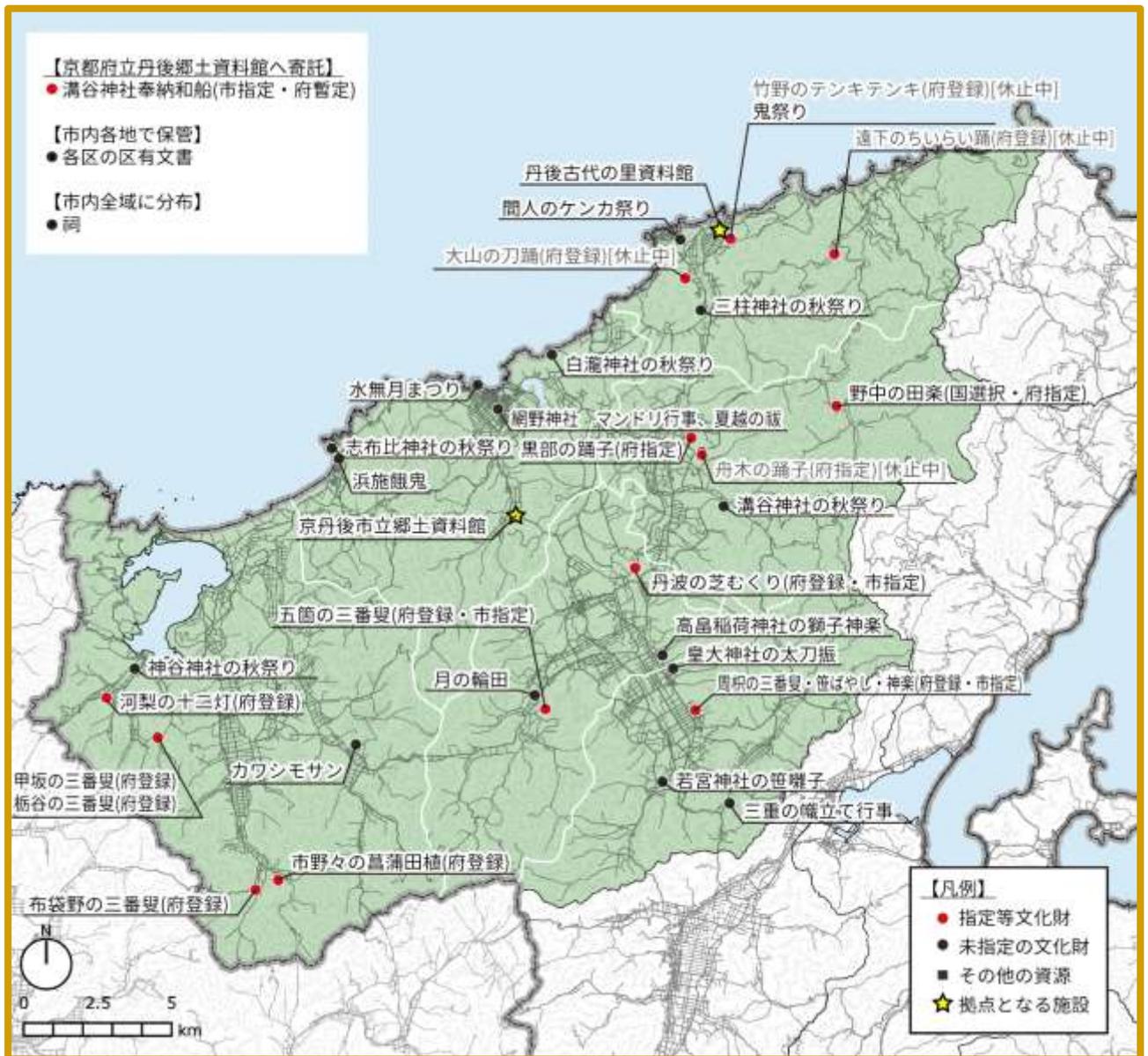


図 3-12 <暮らしを彩る祭礼・芸能>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



4-3. 半島と共に生きる食の知恵

■古代から継承されてきた豊かな食文化

本市は、古代から豊かな食文化が展開されていきました。縄文時代後期の浜詰遺跡では府内で唯一の貝塚が発見されており、石器や骨角器とともに大量の貝類や魚の骨が出土しています。また、平遺跡からは、古墳時代の製塩土器が出土しており、本市域で古くから塩づくりが行われていたことが分かります。

■米づくりと酒づくり

本市は、京都府下有数の米や酒の生産地といえますが、その歴史は古代に遡ります。平城宮からは丹後から宮中に赤米や酒米を納めた記載がある木簡が見つかり、また、『丹後国風土記』逸文には、羽衣天女が酒造りを行っていたことが記されています。

■保存食の豊かさ

各家庭では、厳しい気象条件のもと、多様な保存食が作られてきました。例えば「ぐら」のような水分の多い魚の干物として保存すること、飢饉に備えて海藻を乾燥させて保存する習慣がありました。野菜の保存食としては、いか干し大根など数多くあげられます。このように食材、保存する知恵、調理法など「食べごとの知恵」が市民の長寿を支えてきました。

■祭礼と食文化

食文化は季節ごとの行事や祭礼などとも深く関わっています。巻き寿司は田植えの後に食されていたといわれています。正月に欠かせないのが紅白のもちを小指くらいの大きさにちぎってクロモジの枝に飾る「もち花づくり」です。

「丹後のばら寿司」は本市の祭礼の食文化を特徴づけるものです。保存食として加工されたサバのおぼろを用いた寿司を大きな「まつぶた」で作り、切り分けていただく「丹後のばら寿司」は、家庭で食べる身近で豪華なご馳走であり、家族や親戚、隣近所、地域をつなぐ食文化です。このほか伝統的な「へしこ」、夏祭りの「あんころもち」、「茶がゆ」、「はぼご飯」、法事の際の「羅漢和え」などの郷土料理も地域で大切に継承されています。また、本市では、「うどん皿」と呼ばれる麺鉢よりも浅く小さな皿を用いて、季節の祭りや地域の集まりではうどんを食する文化が今も継承されています。

■食文化の継承による長寿のまちづくりに向けて

本市の豊かな果樹や野菜、魚介類等は重要な観光資源ともなっています。戦後に始まった乳業では、学校給食で地元の牛乳が提供されています。こうした風土に根差した食文化は、本市の長寿に結びついていることも明らかになっています。

丹後古代の里資料館と京丹後市立郷土資料館を拠点として、郷土の料理や食材を継承し、長寿のまちづくりを推進します。



浜詰遺跡復元模型



ぐら汁



丹後のばら寿司



学校給食での郷土料理の提供

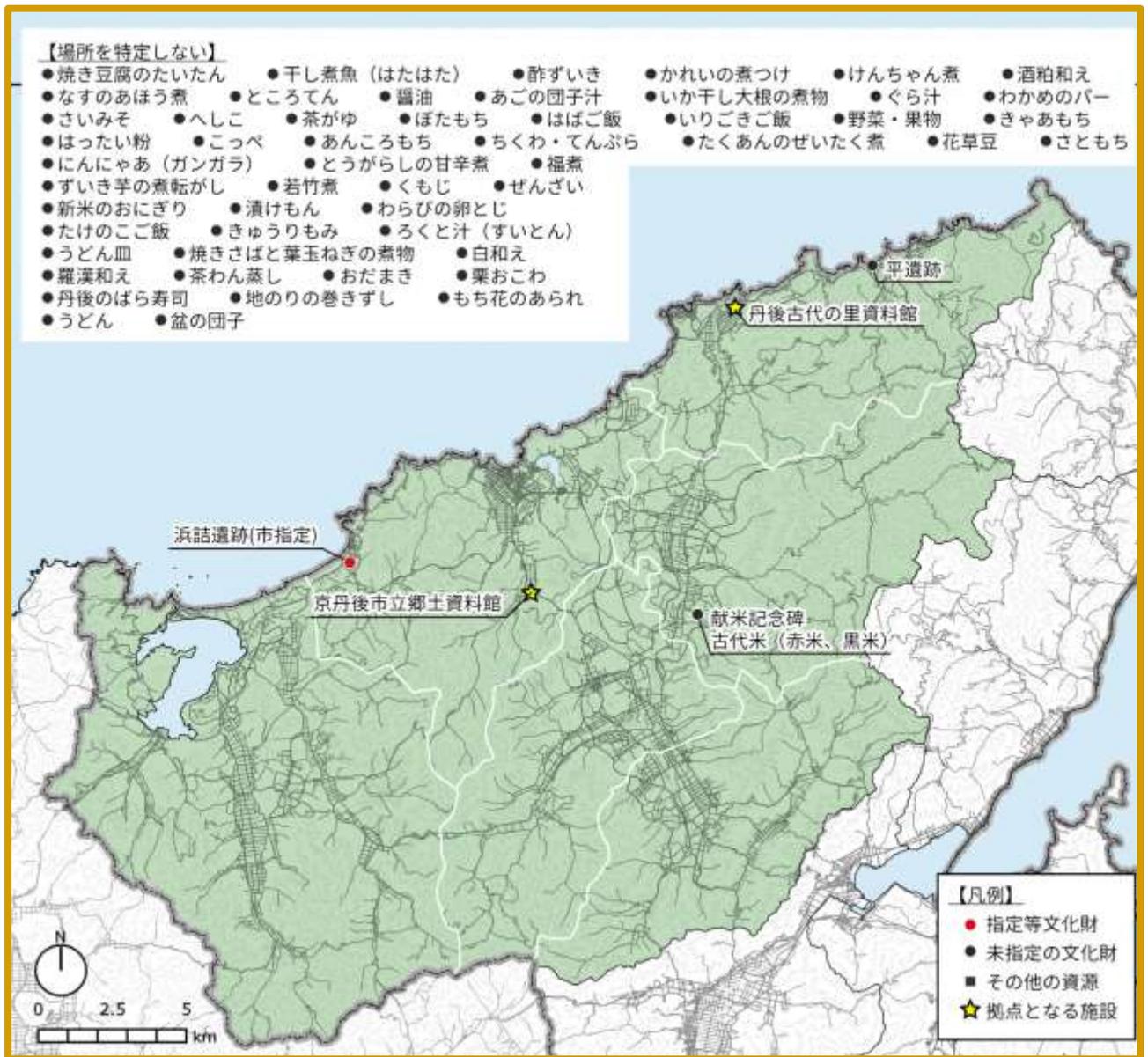


図 3-13 <半島と共に生きる食の知恵>の関連文化財群と関連施設

※関連文化財群の一覧は参考資料 2 に掲載。



さまざまな郷土食



うどん皿
出典:暮らし旅 HP
<https://kurashitabi.kyoto/>

コラム「日本のふるさと丹後～可能性に満ち溢れた丹後の歴史文化」

「丹後王国」とも呼ばれる古代丹後には、日本海側最大の網野銚子山古墳をはじめとする丹後三大古墳のほか、多くの伝説・伝承が残っています。門脇禎二が提唱した「丹後王国」があったとされるなど古代丹後の歴史文化は多くの人々のロマンをかきたて、心惹かれるものです。

以下では、「日本のふるさと丹後」をキーワードとし、丹後に生きる私たちの心のよりどころ、現代のものづくりにつながる歴史文化の特徴について、伝説・伝承によるものも含め、11のストーリーとは別の切り口からコラムとして記したものです。

■豊受大神と丹後～稲作発祥の地と伝える丹後～

最初に注目する点は、丹後と豊受大神とのつながりです。歴史文化のストーリーの中でも述べられている『丹後国風土記』の羽衣天女は、万病に効く酒を造った豊宇賀能売神、すなわち伊勢神宮外宮の豊受大神と記されています。丹後には、天女が祀られた延喜式内社の奈具神社（弥栄町船木）をはじめ多久神社（峰山町丹波）など、豊受大神を祀る神社が多くあり、天照大神が伊勢神宮に鎮座される前におられた「元伊勢」の地とされています。

また峰山町二箇には、豊受大神による稲作発祥の地と伝え、豊受大神が初めて粳種を水に浸した苗代と伝える「清水戸」や、その粳種を蒔いたところと伝える「月の輪田」があります。二箇区「月の輪田」保存会では、平成25年より「月の輪田」で収穫した古代米を伊勢神宮へ奉納しているほか、二箇産の米を使った純米吟醸酒「丹後・みかづき田」を造っています。

以上のように、京丹後市は、豊受大神と関わりの深い土地柄といえます。また、京丹後市は、生物多様性をはぐくむ農業を推進しており、平成23年には隣の兵庫県豊岡市と「コウノトリもすめるさとづくり共同宣言」を行っています。特別天然記念物コウノトリが人間と共生する安心の米作りの産地としての源流は、古代にさかのぼると考えています。

■ヤマトタケルの祖母ヒバスヒメ

11代垂仁天皇のお后となったヒバスヒメは、丹波道主命と川上麻須郎女の間の子とされ、丹後とゆかりの深い女性です。12代景行天皇はヒバスヒメの子どもであり、日本の国作りに重要な役割を果たしたヤマトタケルの祖母にあたります。

■タジマモリと果物やお菓子作りのふるさと

延喜式内社の売布神社は、垂仁天皇の命で橘を持ち帰った田道間守命がこの地に祀った神社と伝えています。橘を音読みすると「キツ」と読むことから、売布神社の立地する場所は、網野町木津という地名になったと伝えています。一般的に地名は、音



羽衣天女が祀られた奈具神社



月の輪田



清水戸



売布神社

から始まり、後に漢字を当てはめるものとされるため、必ずしも古代にさかのぼる伝承ではないかもしれませんが、現在も市内各所で行われている果物やお菓子作りのふるさととして、田道間守命の伝承が残ることはもっと注目されても良いと考えています。

■神谷神社の磐座

久美浜湾から少し内陸に入った神谷神社（太刀宮）には、大きな磐座があります。古代にさかのぼる自然信仰をあらわすものと思います。近年、地元が「鬼滅の刃」の炭治郎が日輪刀で切った岩によく似た岩として紹介したところ、多くの方々が訪れる観光スポットとなっています。磐座自身は、古代の自然信仰をあらわすものとして、すでに知られていたものですが、そこに新たな情報を付加することで魅力が深まることを示しています。

■織物、機械・金属業など日本のものづくりのふるさと

京丹後市の主要な産業としては、丹後ちりめん^{にちりんとう}に代表される織物業のほか、機械部品製造などを行う機械・金属業があります。丹後ちりめんの歴史とその後の展開は、古くから織物が作られてきた歴史の積み重ねのもとに、約300年前に丹後ちりめんの導入、その後の社会情勢の変化に対応してきた長い歴史があります。そのおおもとは、奈良の正倉院^{しょうそういん}に残る奈良時代に丹後から献納された「あしぎぬ」があり、当時の丹後の人々の技術や、都とのつながりを感じさせるものです。

また遠慮遺跡（弥栄町木橋・鳥取）は、平成元年の発掘調査により古墳時代後期の操業とわかり、翌2年5月の報道発表当時は、「日本最古の製鉄コンビナート」と呼ばれ、新聞各紙の一面を飾りました。その後、日本最古の座は譲ったようですが、古い段階の大規模な製鉄遺跡であることには変わりありません。

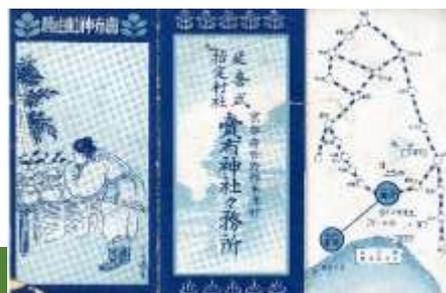
現在の機械・金属業の源流は、古代の製鉄コンビナートにさかのぼると言っても過言ではないと思います。

■各地との交流～兄弟のようなことばをもつ丹後と東海

古代丹後は、各地との交流と交易によって栄え「丹後王国」とも呼べる力をもった勢力があったと言われており、出土遺物を見ると、弥生時代から古墳時代には、東海地方との交流があったことがわかっています。このことと直接関係するかどうかはわかりませんが、丹後弁と尾張弁は、語尾の二重母音が共通するなど、広く、よく似ていると言われています。

■日本のふるさと丹後

多くの企業を創始した松本重太郎に代表される丹後の人々の気質は、勤勉・実直の「気張る」という一言に語りつくされます。近代以降、丹後から外に出て活躍していた偉人は多くあります。



田道間守伝承を描いた売布神社由緒



神谷神社境内の磐座



遠慮遺跡の製鉄炉

(公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター提供)



遠慮遺跡の炭窯

(公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター提供)

一方、ICT 技術の発展した今日は、丹後から発信する素地はできていますし、また丹後に移住して活動することも可能です。

そういった環境の中で、本市は豊受大神とのつながり、垂仁天皇のお后であるヒバスヒメの物語のほか、古代にさかのぼる食やものづくりの歴史があります。今後は、市民を中心に据え、これら歴史文化を活用し、京丹後市の交流人口の増加と活性化の起爆剤として、京丹後市文化財保存活用地域計画や市民遺産制度を活かしたまちづくりを推進していきたいと考えています。

<参考>京丹後市略年表

	地球の営み	人びとの暮らし	社会の仕組み
約12000年前	旧石器時代以前		
BC500頃	縄文	・近畿で最古級の旧石器時代の遺跡である上野遺跡が営まれる ・平遺跡、浜詰遺跡等が営まれる ・稲作が始まる（竹野遺跡等） ・高地性集落が形成される（扇谷遺跡） ・玉づくりや鍛冶等が行なわれる（奈具岡遺跡等）	・大陸から様々なものがもたらされる（函石浜遺跡出土の貨幣など） ・有力者とその家族の墓が造られる（大山墳墓群、左坂墳墓群等） ・国内最大級の赤坂今井墳墓が造られる ・青龍三年銘鏡が副葬される
3世紀頃	弥生		
593	古墳	・製鉄工房が営まれる（遠慮遺跡等） ・須恵器窯が営まれる ・竪穴住居から掘立柱建物に変わる	・大規模な前方後円墳が築造される（網野鏡子山古墳、神明山古墳等） ・長持形石室をもつ古墳が築造される（摩土山古墳等） ・横穴式石室を持つ古墳が築造される（湯舟坂2号墳、大成古墳群等） ・依野麻寺が建立される ・丹波国より、加佐、与謝、丹波、竹野、熊野の五郡を割いて丹後国が成立
710	飛鳥		
794	奈良	・竹野郡鳥取郡より籍を都へ納める ・丹後各地から海産物や米を都へ納める	
1185	平安	・市内各地に寺院が建立される（縁城寺・円頓寺・成願寺等） ・一蓮上人の一行が久美浜に来る ・本願寺本堂が建立される	・東丹国の一行等異国船が漂着する ・市域に荘園が成立する
1333 1336	鎌倉		
1392	南北朝	・『庭訓往来』に「丹後精好」があげられる	
1573	室町	・逆修塔や板碑、石塔等の建立が盛んになる	・一色範満が丹後守護となる ・各地に山城がつくられる
1603	安土桃山		・一色氏が滅ぶ ・松井康之が久美浜に城下町を築く
	江戸	・絹屋佐平治が丹後ちりめんを初めて織る	・京極高知が宮津藩主となる ・京極高知の死後、丹後国は田辺、宮津、峰山の3藩に分かれる ・熊野郡が幕府の直轄領となる ・久美浜に代官所が置かれる
1868	明治	・奉納和船が作られる ・平地地蔵が作られる ・ウィーンの万国博覧会に丹後ちりめんが出品される ・綿ちりめんが作られる ・丹後鉄道株式会社が創立 ・経ヶ岬灯台が完成 ・丹後杜氏が活躍する ・国産の実施	・明治政府誕生、久美浜県が置かれる ・宮津県・峰山県が設置される ・市域が豊岡県に編入される ・市域が京都府に編入される ・町村制が施行され、市域に1町36ヶ村が成立する
1912	大正		
1926	昭和	・北但馬地震発生 ・北丹後地震（丹後震災）が発生 ・丹後震災記念館を建設	
1989	平成	・三八豪雪 ・山陰海岸国立公園の指定	・峰山海軍航空隊が発足する ・昭和の合併により旧6町が発足
2019	令和	・丹後天橋立大江山国立公園の指定 ・山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定	・6町が合併し京丹後市が誕生
		・丹後ちりめんが日本遺産に認定	